

県内の情報連絡員報告

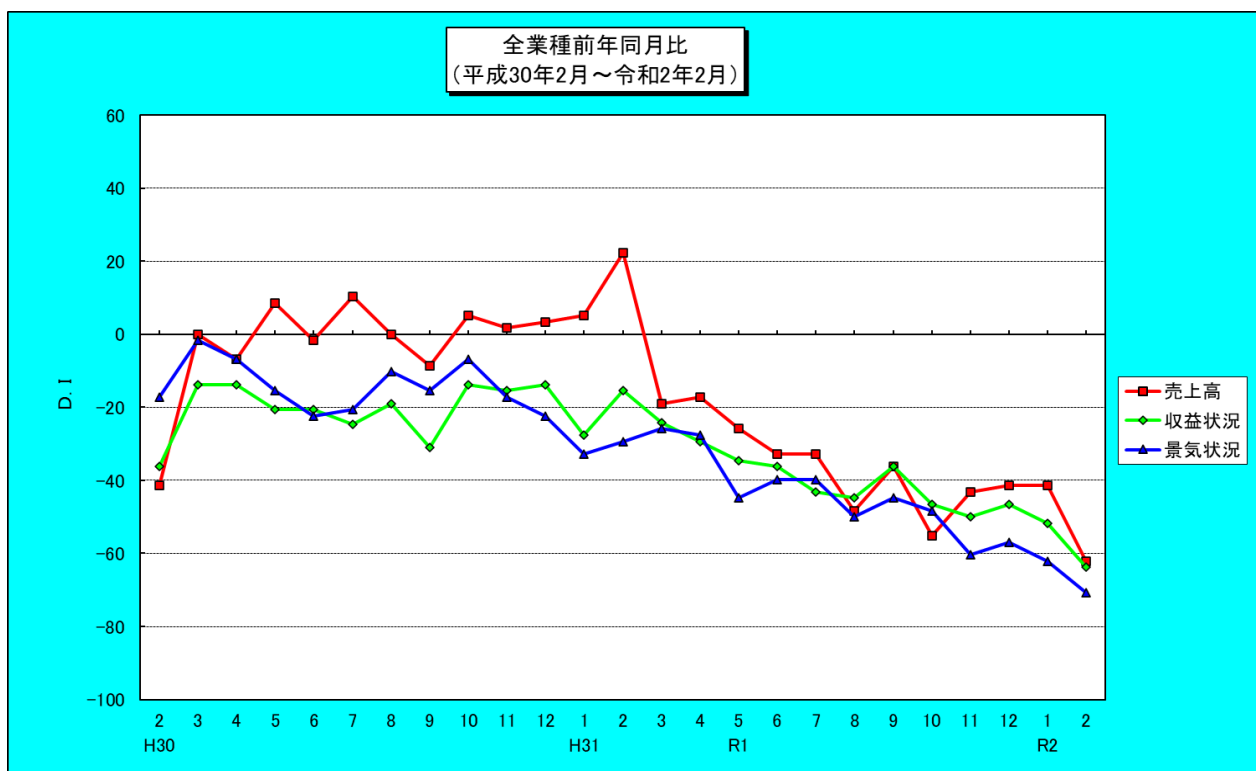
石川県中小企業団体中央会

令和2年2月分

令和2年2月期において

- DI値で見ると、昨年同月比をもとに前月との増減を比べた場合、9項目中、5項目が悪化、4項目が上昇となった。新型コロナウイルスの影響拡大により、売上高が大幅に悪化し、景気状況はさらなる悪化となった。終息の見えない事態に事業者は苦慮している。
- 製造業においては、3項目が悪化、2項目が横ばい、4項目が上昇であった。売上高の悪化幅が大きく、収益状況や業界の景況も非常に低い水準に留まっており、業況はさらに厳しさを増している。悪化していたのは、新型コロナウイルスの影響で観光客の減少や来店客数の減少などの影響を受けた食料品製造業や陶磁器製造業、漆器製造業、暖冬により冬物衣料が落ち込んだ繊維同製品製造業、イベントの中止・延期で印刷物に影響があった出版・印刷業、北陸新幹線延伸工事の需要が減少している窯業・土石製品製造業、中国経済の不振による影響が顕著になってきている一般機械器具製造業や鉄鋼・金属製品製造業、プラスチック製品製造業などであった。好調であったのは、暖冬で雪もなく住宅の着工が順調に進んだ木材・木製品製造業などであった。中国経済の減速から受注が減少している中、新型コロナウイルスの影響によりさらなる追い打ちをかけることになり、今後長期化することでの影響拡大が危惧される。
- 非製造業は、7項目が悪化、1項目が上昇となった。月の前半は好天で人出も比較的多かったが、新型コロナウイルス問題が大きくなった後半から人出が急激に減少し、様々な業種で厳しい業況となった。悪化していたのは、暖冬で季節商品が売れなかった各種商品卸売業、新型コロナウイルスの影響による経済活動の鈍化で売上が減少した燃油小売業や水産物卸売業・水産物小売業、予約キャンセルなどで観光客が激減した土産物小売業や旅館・ホテル業などであった。一方、好調であったのは、エアコンや4Kテレビ、空気清浄機が好調であった電器製品小売業、休校報道までは賑わいが続いた近江町商店街などであった。
- 新型コロナウイルスの影響について、全業種では、新型コロナウイルスの影響の有無について、「すでに影響が出ている」が53.8%と最も多く、「今後影響が出てくる見込み」が34.6%、「特に影響はない」が11.5%と約9割が何らかの影響があると答えた。業種別では、非製造業の方が「すでに影響が出ている」の割合がやや高く57.7%、製造業では50.0%であった。影響の具体的な内容を見ると、サプライチェーンの影響、観光客・客数の減少、国内外の経済の停滞などが多かった。人やモノの動きが停滞しているため、サプライチェーンに関することやホテル・飲食店などの大幅な客数の減少、またそれらに納入する事業者など様々な業種に悪影響を及ぼしている。対応や対策の有無については、「特に対応・対策をしていない」が57.8%と最も多く、「対応・対策を取っている」が28.9%、「対応・対策を取る予定」が13.3%であった。「対策がとれない」、「取りようがない」といった声が多かった。取っている対策としては「消毒液やマスク等による予防」、「営業活動の制限や自粛」、「雇用調整助成金などの支援制度への申請」などが聞かれた。製造業においては、サプライチェーンの影響が最も回答が多く、次いで、観光客・客数の減少、国内外の経済の停滞などが続いた。製品等を製造するという業種であることから原材料や部品等の仕入れに影響があるとの回答が目立った。非製造業においては、観光客・客数の減少、予約のキャンセル、サプライチェーンの影響の順に回答が多かった。不要不急の外出自粛などから、来店客数減少による売上減など、製造業以上に影響は大きいと思われる、早期の終息が望まれる。

◇全業種の前年同月比推移 (H30.2~R2.2)



※本調査は、当会に設置している情報連絡員〔中小企業の組合(協同組合、商工組合等)の役員58名に委嘱〕による調査結果です。調査は、情報連絡員が所属する組合の組合員企業の全体的な景況(前年同月比)です。

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	食料品	調味材料製造業	2月度の売上高は前期比14%の大幅減となり、累計でも2%強の減少となった。事業者向けの出荷が振るわなかった。食品表示基準の制定に伴う対応(栄養成分表示など)の経過措置期間が3月末に迫っており、未対応の事業者には早急に対処してもらえるよう注意喚起している。ラベルの更新に費用がかかることは中小事業者にとって痛手となっている。一部事業者ではこれを機に廃業を選択するという事態も発生している。
		パン・菓子製造業	小中学校の休校に対する影響(学校給食)が案じられる。
		パン・菓子製造業	国内外からの観光客激減により、近年にない大幅な売上上の減少、それに伴い、収益状況も大変厳しく、このような状態が続くとすると深刻な経営となる状況である。年度末の3月で廃業による退会届が2店あり。市場の縮小等による業界の将来像が見えない。
	繊維工業	織物業 (加賀方面)	中国で発生した新型コロナウイルス感染拡大による計り知れない産業への打撃、景気の落ち込み、経営環境の悪化が懸念される。 対前年同月比生産(絹織物44%減少、合繊5.5%減少)全体で5.6%減少。繊維全体で低下状況が出ている。織物業全体に消費増税、対中国関連の影響が出ているのが見られる。 2年連続の記録的な暖冬で、冬物衣料が販売不振。加えて新型コロナウイルスの影響で中国からの原材料が滞る。
		その他の織物業 (染色加工)	2月度の失速感が著しく大きなものとなっている。売上高は前年同期を大幅に下回っている。今年度は対前年20%ほどの減にて推移してきたが、2月においては40%以上の減となり、それに伴い収益状況も厳しく、危機的状況に入ってきている。消費税率のアップが効いてきているのと呉服市場の冷え込みが要因となっている。
		ねん糸等製造業	生産、販売共に厳しい状態にある。「売上高」「収益状況」共に前年度を下回っている。内需、輸出共に不振である。現時点では厳しい状況が続いている。日本として、もの作りの点において改めて考え直す必要があると考える。
	木材・木製品	製材業、木製品製造業 (加賀方面)	2月度売上は昨年と比較するとほぼ同じである。1月度と同じく、今年は暖冬で雪が降らない為、住宅の着工率も例年の冬と違い若干だが多くなっている。但し年間着工数は毎年10%ほど下がってきている。売上げ中身を見ると1月と同様、粗利率が相変わらず下がっている。原因は1月度同じく原材料の値上がりが大きく響いている。そして電気、燃料(重油)、昨年4月依り値上がり電気で約10-15%値上がり、重油で高い時約45%値上り、油の価格は変動している。世界事情が大きく影響している。価格は79-66円の間。新型コロナウイルスの影響はまだこの業界は出ていないが、いずれ関係してくると思われる。
		製材業、木製品製造業 (能登方面)	2年2月取扱量2,165㎡(+103㎡)、売上金額29,728千円(+844千円)、平均単価13,733円(-275円)。今月は雪が無いため、入荷は順調であった。市況はスギ・アチ共に保合いで推移している。スギの中目材は安定して好調を付けている。需要面では、良質材は勿論のこと並材においても質の良いものには引き合いがあるが、低質材は売りにくく需要の格差が感じられる。
		製材業、木製品製造業 (金沢方面)	2月度に関して報告。例年であれば冬期閑散期だが、結果的には需要期となら変わらず、通常以上の需要となり、4月から始まる「働き方改革」に沿った残業配分が思うように計れず困惑している。
	印刷	印刷業	新型コロナウイルスの感染拡大防止対策が実施されたことで、県内外での行事やイベントの中止または、延期に伴い関係する印刷物のすべてが、生産調整の対象となっている。また、観光に関する印刷物も発注が据え置かれているとのこと。さらに、機械・電気・建材の各種メーカーに於いては、中国からの部品調達に停滞しており、国内での生産調整が始まっている。その関係から、新製品等の発売時期に変更が余儀なくされ、既に発注を受けた印刷物の見直しが危惧される。また、学校の休校処置などにより、小中学校の低学年の親世代にあたる社員やパート従業員の勤務状況に制限が出ており、年度末に納期が設定されている印刷物に影響がでる可能性がある。新型コロナウイルスの感染は、拡大のスピードにはらつきはあるものの、もはや世界各国での拡大している。そして、収束がいつになるかが、全く予想できない状態である。その状況で、どのような対策を取れば最善であるかは誰にもわからない。その中で、印刷業界ができる一つの形として、石川県印刷工業組合は、金沢市教育委員会に対して、新型コロナウイルス感染拡大防止による、各小学校での受け入れ児童へ図工教材として、ペーパークラフトのセットを寄贈することとした。金沢市内の各小学校では、今回の休校処置は急なこともあり教材不足が課題となっていると聞いた組合員有志が、特に低学年の児童に役立ててほしいとの願いから今回2,500部と数量限定ではあるが、実施に踏み切った。
	窯業・土石製品	碎石製造業	2月の組合取扱い出荷量は対前年同月比、生コン向けは出荷23.0%減、合材用アスファルト向け出荷は7.0%の増、特需による出荷量はなく、全出荷量では23.2%の減少となった。4-2月期の対前年比では、全出荷量で12.2%の減少となる。
		陶磁器・同関連製品製造業	2月度における売上高と収益状況は、激減である。2月に入って新型コロナウイルスによる外国人の観光客の減少で観光に関しての売り上げは減少し始め、2月半ば過ぎから日本人の観光客も減少傾向でかなりの売り上げダウンとなる。県外の取引先の小売店などは、このままでは閉店を考えているお店もあると報告も受けている。丸谷焼の販売にイベントや催事が予定されているが2か月先以降の予定の見通しが立たないで不安でしかないとの声をよく耳にする。
		生コンクリート製造業	2020年2月末日の県内の生コン出荷量は、前年同月比78.5%(組合員外社を除くと76.4%)となった。各地区の状況は、前年同月比6地区のうち七尾地区のみが161.5%とプラス値となり、その他の地区は、南加賀地区が66.4%、鶴来白峰地区が52.5%、金沢地区が91.0%、羽咋鹿島地区が93.2%、能登地区73.7%とマイナス値となった。プラス値となった七尾地区は前月同様ホテル建設等の出荷が増えているが、全体的な出荷量としてはあまり多いとは言えない状態である。2月末日の県下生コンクリート出荷量の官需、民需(組合員外社を含む)の前年同月比は、官公需69.5%、民需96.0%となっている。
		粘土かわら製造業	降雪が少なく、例年ある修理も無く動きが悪い。売上高、収益共に悪化した。
	鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	新型コロナウイルスの影響から中国現地法人は在宅勤務、海外出張禁止、不急不要な国内出張の自粛で生産活動の停滞が懸念される。組合活動においても新型コロナウイルスの予防策として、行事を中止又は延期、縮小して対応している。
		非鉄金属・同合金圧延業	新型コロナウイルスの関係で、観光客が激減し売上げが減少した。販売部・生産部ともに、厳しい状況である。
		鉄素形材製造業 (鉄鉄鑄物の製造)	生産量は前月比6.8%増、前年同月比では17.9%減と19カ月連続で落ち込んでいる。向け先別では前月同様すべての分野で減少している。特に工作機械、産機向けが厳しい。組合員の半年先の見込みとして悪化の予測が7割ほどあり、全国の鑄物業界の動向も同じで厳しい状況である。新型コロナウイルスで一部生活物資の価格に変動をきたしているが、下請け企業へのしわ寄せが出ない施策をお願いしたい。
		鉄素形材製造業	1月との比較では、まだ大きな変化が表れていないが3月以降が非常に心配している。親会社自体が仕事不足により内製化している様子が感じられる。新型コロナウイルスの影響が始めており、親会社のさらなる在庫調整や内製化により3月の受注が大幅ダウンとなる。リーマンショックの再来を予測して、資金繰りを検討している話が出ている。

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	対前年同月比で見ると△4%減の結果、前月から更に落ち込んだ。通例ですと2月から反転上昇の道筋を辿るのだが、雰囲気最悪、人も物も留まって動かないため、先の見通しが全くつかない。一部で中国からの部品が入ってこないため、加工応援という名目で、急速特定の部品対応に追われて忙しい加工先もあるが、大半の組合員は最悪の雰囲気の真っ只中にいる。これだけの物や人の動きが止まると、先がまったく見えない。ものづくりの地産地消というトレンドになればいいが、そんな単純なものでもなく、ついこの先を案じている。
		一般産業用機械・装置製造業	コロナウイルス対策として出張制限などの対応を取っており、マインドが低下してきている。円高と大幅な株価下落は個人消費に対して心理的に大きな影響を与えることとなり、消費税増税の悪影響が続く中で打撃となり、景況を悪化させる。設備投資意欲の低下や競合が激化してきており、収益にも影響が出始め、反転する要因が当面見当たらない。
	一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	当組合は鉄工関係の中小企業100社で構成されている団体であるが、業況については扱っている業種によって多様である。しかしながら多くの組合員企業では産業機械、工作機械、繊維機械など輸出に関連した仕事をしており、世界的な設備投資の減少、とりわけ米中の貿易摩擦の悪化が長期化する中で受注は大幅に減少している。さらに残った受注分についても、業種によっては中国からの資材や部品が遅れており、工程に大幅な遅れを生じている。こうした状況についてはいつ収束し、また受注が回復するのか全く先が見通せないため、経営者としては大きな不安を抱えている。現在在籍する従業員の雇用を維持するためにも、各種雇用助成金等の迅速なサポートが求められている。
		機械金属、機械器具の製造	業況はおおむね安泰。
		繊維機械製造業	前月度と比較し、全体では25%程の売上高の改善が見られるが、前月が底に近いようなレベルだったこともあり、受注環境が改善しているとは言えない。むしろ新型コロナウイルス関連での、メンタル面も含めて様々な影響が懸念されるところである。金属機械加工業全般における新規受注状況は低迷したままで改善はしていない。一定の仕事量はあるが、新規案件は低いままである。また繊維機械・建設機械等については、改善の傾向が見られるものの、急速な回復は期待できていない状況にある。当該組合員企業における一般機械関連部品加工関連の売上状況は、前月比較では、数パーセント下がった水準となった。繊維機械/建設機械等の関連では、前月比で30%改善した数字を示している。未だそのレベルは前年度平均比はまだ半減近い状況にあり、本格回復まではまだ見えていない状況。工作機械業界も全体に内需・外需ともに設備需要に力強さがまだない状態にある。
		機械工作鉄金加工	2020年2月の工作機械受注状況は前月比95.0、前年同月比69.9となっている。総売上高では前月の1月を下回っている。本報告のために2015年から集計して以来最低額となっている。景気後退の要因として世界的には以前からも上げている米中関係、イラン情勢など改善の見通しが見えてこない。1月に勃発した新型コロナウイルスによる影響が2月では本格化、全世界への広がりを見せているが、製造業においては中国での生産が停止しているものもあり部品、原材料調達において遅延、納期不明な影響はある。しかしながら直接業績悪化の影響はまだ少ないが、長期化することで影響は甚大になるとと思われる。時期的に収まることを期待するが、そうでない場合のリスクも考えておく必要もある。
		機械器具及び其の他金属製品の製造	前月比・前年同期比から全て横ばいである。新型コロナウイルスの影響が心配である。輸送機器は、前月比から売上・採算性・業績状況マイナスである。見通しは採算性・業績は悪くなっている。月によって変動がある。電機機械は、前月比から売上・業績状況は悪くなっている。見通しが資金繰り・業績状況が悪くなっている。液晶関連は前月比から良くなっている。チェーン部門は、前月比から売上・業績は悪くなっている。コロナウイルスで一段と悪さが加速気味である。繊維機械は、オートワインダー前月比から増加・革新紡の生産は前月から減少。さらに悪くなっている。
		機械金属、機械器具の製造	売上、収益共低調。中国経済の減速が影響。
		機械金属、機械器具の製造又は加工	売上高は対前年同月比20数%強の減少となる見込みである。昨年度の高操業度に対しての減少なので、減少幅が大きい。現状について、世界的影響が出ている新型コロナウイルスの影響で、来期の計画は見通しが立たないというのが実情である。したがって生産活動については、状況に応じた対応が求められるので、情報を広く正しく集める努力が重要と考える。また新型コロナウイルスの具体的な対応方法は、主要取引先の行動基準を参考に関係者に周知した。会合等は場所、参加人数によるが適宜、開催、延期または中止の対応を取っている。情報管理が重要と考え、誤った情報に惑わされないように、広く、正しい情報を集め、臨機応変に対応していくことが重要と考える。テレワークは弊組合では実施困難だが、会議や集会のあり方をこの機会に見直ししていきたいと考える。(テレビ会議の採用等)
	その他の製造業	漆器製造業(能登方面)	今年は、降雪がなかったが、昨年より観光の入込が少なかった。また、新型コロナウイルスの影響が非常に大きくなってきている。
		プラスチック製品製造業	売上げも、収益もマイナスとなっており、先の見えない状況が続いている。米中貿易摩擦・消費増税・新型コロナウイルスなどの明るい要因がない状況になっていて、今後の景気低迷に対する不安感が高まっている。どの業種も景気低迷になっている(建設業は多忙)。昨年の10月以降個人消費の後退や、中国経済の不振による影響が顕著になってきている。特に、新型コロナウイルスの発生による影響は、イベントや旅行などの中止により、これまで売上げの伸びていた観光・サービス産業などにも大きく影響を及ぼすと推測され、設備投資などにもストップがかかる可能性がある。
	非 製 造 業	卸売業	各種商品卸売業
一般機械器具卸売業			住宅、非住宅市場共に低調にて売上、収益ともに前年を下回っている。そこへ新たに、新型コロナウイルス問題が加わり、中国関連のサプライチェーンが崩壊、仕入れ先メーカーの一部商材に受注停止や納期遅延が発生しており、結果、納入現場行程の停滞が起こっている。また展示会、研修会等のイベントも中止や延期が続出しており、国内経済の停滞による先行きの需要低下が懸念される。
水産物卸売業			近海物は時化で水揚げが減少する中、山陰などからハマチ、イワシが好調で売上げは対前年比99.6%と前年並みであったが、今年がうるう年で1日多くあったことを考えると減少している。新型コロナウイルスの発生とともに売上げが減少しており3月は厳しくなる。
各種商品卸売業			全般的に売上は落ちているようである。昨年の増税に加え、暖冬の影響で季節商品が売れないのに加え、コロナウイルスの問題が起きて、消費行動も停滞しているようである。新型コロナウイルスの影響で、ある部品が納入されないため、製品を取り付けることが出来ず、納期に影響が出ている。繊維関係も今後夏物の納入に影響があると思われる。組合会館も2月下旬からキャンセルが相つぎ、現在30件の使用中止の連絡があった。
小売業	燃料小売業	2月以降収益状況は悪化傾向にある。異常気象や新型コロナウイルスによる経済活動の鈍化。冬場の主力商品である灯油の販売が大きく落ち込み、加えて経済活動が低調であることで需要が低迷、更に、原油安によるガソリン等価格の低下を招いており収益状況は悪化傾向にある。OPEC等産油国の協調減産がなされることで価格の上昇も期待できるが、新型コロナウイルスの収束時期が分からないだけに経済とつながることが続くと思われる。それにより、今後組合員の収益状況が非常に懸念される。アメリカ、イラクとの中東情勢が現在沈静化しているが、一方で新型コロナウイルスが拡散し世界経済に多大な影響を及ぼしている。これにより、原油価格は低下。国内でのガソリン価格が低下していることや国内経済にも影響が出ており需要が減少、収益確保が厳しい状況が続いている。いつ収束するかが見えない中で経営であり今後の状況が懸念される事態である。	
	機械器具小売業	2月上旬に気温が下がり、寒さ到来でエアコンが台数前年比132%と好調だった。今話題の4Kテレビも買い替えを中心に153%と販売に貢献し2月度の金額は10%と5ヶ月ぶりに成長性を確保できたが2月度の年間販売構成比率は低く収益面ではマイナスだった。毎年2月は花粉やインフルエンザ対策などで空気清浄機への関心が高く、今年はさらに新型コロナウイルス対策として菌の活動を抑制する機能を搭載した機種は爆発的に売れ、前年の4.8の実績であった。後半から中国生産の商品入荷が見込めず、お届けが厳しくなっている。品不足と消費低迷の悪影響で来月以降の販売が先行き不透明である。	

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非 製 造 業	小売業	男子服小売業 婦人・子供服小売業	消費増税で需要が弱ったところ直撃した新型コロナウイルス騒動。商品を買うような状況ではない。(自宅待機、苦す津自粛、前代未聞の休校、イベントの中止や延期、営業時間の短縮など) 感染拡大の終息時期が見通せない。この影響の長期化は大変懸念される。(前年比94.6%)
		鮮魚小売業	2月の売上は、例年閑散月で、その例年以上にコロナウイルスの影響でお客様の入りが悪いものであった。また、業務用の部門も市内の飲食店の宴会飲み会の会合がキャンセルのため軒並み中止されており、ある関係者によると、3.11の大震災よりもお客様が少ないガラんとした状態とのこと。2月から観光客や地元の消費者が低調な状態である。新聞やTV報道により街中に人が減って商売にも更に販売が低迷してり、中小零細な店舗では、厳しい状況である。
		他に分類されないその他の小売業	コロナウイルスにより団体キャンセルが5月分まで発生している。観光客は減少して関連業界は厳しい状況である。
		百貨店・総合スーパー	全体売上昨年対比:91.97%、客数昨年対比:90.59%。売上、客数ともに90%台となっているが、個店別では飲食が伸び悩んでおり、新型コロナウイルスの影響で観光客の減少があったものと思われる。数字のみで見ると比較的良い結果となっているが、店舗別ではコロナウイルスの影響で観光客が減っているため、昨対を下回っている店舗が多い状況である。2月末～3月以降に予定していたイベントの中止が決まり、4月以降についても現段階でイベント中止を決めたものも多く、今後の収束状況によっては、さらに厳しい状況が続くと思われるが、終わりが見えないため店舗からは不安の声が聞かれる。
		農業用機械器具小売業	2月上旬に開催した組合展示会・総会も、コロナウイルスを気にかけてつも無事終了した。昨年と比較すると秋商品の予約が多い印象がある。春商品である圃場の剤等も昨年の出荷量より若干増えている。出だしとしては順調な感じがする。売上だけで見ると昨年同月とほぼ同額である。展示会には異業種の仕入先さんに入ってもらい、異業種商品の売り上げを伸ばしてもらったことも大きい。展示会の売上が大きい分、収益状況はあまり良くない。あくまでも組合員の利益中心で、仕入先さんにも協力いただいている。
	商店街	近江町商店街	2/1(土)はフードピア協賛「近江町鍋大会」を開催し賑わった。コロナの影響を心配していたが3連休中の23日(日)は特に賑わいがあり、飲食店では「ここ一年で一番忙しかった」という声もあるなど、2月は前年並みの来場者を見込んでいたが、27日(金)の全国小中高等学校の休校報道後から来場者が急激に減少した。
		輪島市商店街	少しは明るい兆しが出てくるとの期待を持ちながら、令和2年の2月を迎えたが、この度の「新型コロナウイルス」の感染拡大で本当に厳しい状況になってきた。自粛ムードに拍車がかかり、外出も控えお客様が来店しない日が続いている。3月以降が心配で、これまでに経験したことがない深刻な状況となりそうである。売上昨年対比91.3%。
		片町商店街	2月前半、中盤は2月でありながら好調であったが、22日からの3連休過ぎからコロナウイルスの影響が出て終盤の落ち込みがあり、減少に転じた。売上がこれから上がる状況であるのに、月末からのコロナウイルスの影響で戻すばみのような状況で2月は終了した。
		堅町商店街	2月中旬までは天候も良く、特に週末に荒れた日が続かなかったことで例年以上の人があったが、新型コロナウイルスの問題が大きくなり、県内で感染者が出たことで、急激に来街者が減少した。この様なことから2月は例年並みの売上ではあるが、2月後半の落ち込みが、そのまま3月に入ってくる可能性があり、大変心配している。2月下旬よりコロナウイルスのため集客が落ち、組合員が浮足立っている。振興組合に対して対策について問い合わせがあるが対応できないで困っている。内容は店頭にアルコール消毒を置きたいが手配して欲しい、従業員にマスクが欲しいなどの要望には答えを出せない。
	サービス業	旅館、ホテル(金沢方面)	2月に宿泊キャンセルは、組合調査の結果、約8,000人～10,000人に達した。対前年比50%程度である。3月に入りさらに増え、中には壊滅的な状況の施設もある。3月の実績予想は平均的に対前年比30%程度になりそうである。すでにこの機会に廃業を検討している施設も出てきている。資金繰り支援は早急にしないと間に合わない。今月末の支出に手遅れになりそうな心配である。
		旅館、ホテル(加賀方面)	売上高、消費単価、利用人数共に対前年比割れをしている。2月については、国内旅行者の減りは一部だったが、次月の3月は更に影響は大きくなる情勢にある。新型コロナウイルスの影響により、インバウンド客の予約は望めない状況。政府発表報道の影響が大きく、国内客のキャンセル、予約発生がない・少ない状況となっている。終息の見えない事態に資金繰り、休業対応に苦慮している。
			温泉地全体の2月宿泊客数は、前年同月比約93.2%と大きく減少した。当月は、8割の旅館が昨年実績を軒並み下回った。コロナウイルス発生後に目を追うごとに予約キャンセルも増え、観光動向の鈍さをさらに停滞させる結果となった。先行きはまさに不透明である。温泉地全体の宿泊実績としては大きく減少した。売上も同様に推移すると思われる。コロナウイルス発生以降、インバウンド客はほぼ宿泊予約がキャンセルとなり、同様に国内からの観光客もキャンセルが出始め大きな被害となり売上減少につながった。
		旅館、ホテル(能登方面)	入込客88%で減少、コロナショックで、インバウンド影響のみならず国内旅行者の相次ぐキャンセル(個人・団体ともに)が発生し、先行きが非常に厳しい状況である。
		自動車整備業	車検需要は、対前年マイナスの裏年にある中、登録車88.1%、軽自動車95.6%、全体90.9%で推移。新車販売市場は、昨年の10月の消費増税から5カ月連続して登録・軽自動車とも(対前年)マイナス。登録率は88.3%、軽自動車は95.4%で全国と同様なマイナス展開ながら軽自動車は5ポイント分石川県は良い。
	建設業	板金・金物工事業	2月半ばあたりから事業所によって格差がますます大きく開いているような感じがする。例年のことではあるが、冬季に見られることではある差が特に見られる。収益状況も同様事業所によっては格差がみられる。要因としては、受注残や顧客の持ち分の差が大きな原因であるように思う。
		管工事業	2月度における「売上高」は、給水装置工事が36%、ガス工事が24%前年同期と比べ、減少した。給水装置工事の受付件数は、前年同期比39%、ガス工事の受付件数も前年同月比49%減少した。
		一般土木建築工事業	公共事業では、昨年同期に比べ、単月契約件数、累計契約件数、単月契約金額、累計契約金額とも、減少している。特に、県、市発注工事で顕著である。このことから、「売上高」「収益状況」は昨年同時期に比べ減少していると推定される。今後、補正予算分を含む発注動向に注目したい。
	運輸業	一般貨物自動車運送業①	運行業としては前年同月と同様であるが、荷物量の減少と軽油価格の減少から収益は前年同月と横ばいである。
		一般貨物自動車運送業②	輸送需要は対前年比97.4%で売上高は微少している。燃料価格は原油価格の値上がりにより、昨年比では108%と高値で推移している。収益にマイナスとなっている。